—2027年4月開学・設置構想中—

京都医療科学大学 大学院

医療技術学研究科（修士課程）仮称

オンラインも活用した 次世代の医療専門職育成へ

Admission Policy 求める人物像

1. 医療人としての使命感をもち、高度専門医療職として、その知識・技術を社会へ貢献しようという意欲がある人
2. 医療技術における課題や新技術に対する探究心をもち、現状をより良くするための行動を起こせる主体性を有する人
3. 人文科学、社会科学、自然科学等の基礎的素養を身につけており、医療技術学を幅広く学ぶための知的基盤を有する人
4. 医療職として不可欠な責任感と倫理観を備え、創造性や社会性、自己統制力及びコミュニケーション能力を兼ね備えた人
5. 医療技術学分野の指導的役割を担い、後進の育成や学問的発展に貢献しようとする志を持つ人

※設置構想中のため、リーフレットの記載内容は今後変更となる場合があります

設置構想の概要

研究科名 専攻名	医療技術学研究科 医療技術学専攻(修士課程)	学位名	修士(医療技術学) Master's Degree in Medical Technology
開設時期	2027年4月(予定)	募集定員	5名
修業年限	2年	対象	大学を卒業した者 社会人
設置場所	京都医療科学大学 京都府南丹市園部町小山東町今北1-3	教員陣	医学・薬学・医工学分野の専門家

入試

一般選抜(学部生対象) ｜ 社会人選抜

学費

入学金	150,000円	本学卒業生は入学金免除 ※短期大学、専門学校卒も含む
年間授業料	750,000円	

※社会人入学生を対象とした奨学金制度の設置を計画しています
詳細は決まり次第ご案内します

出願資格

学校教育法施行規則第155条第1項に定められた
大学院入学資格を有する者

短期大学・専門学校卒の方も条件を満たせば出願可能

類似する大学院

金沢大学大学院（医薬保健研究域 保健学系）

About Us

本学は、昭和2年（1927年）、日本で初めてのエックス線技師教育機関として設立されました。以来、診療放射線技師の養成一筋に歩み続け、まもなく創立100年の節目を迎えます。これまでに5,000名を超える卒業生を輩出し、その多くが全国の医療現場で活躍しています。歴史に裏打ちされた実績と信頼、そして専門教育の積み重ねが、本学の最大の強みです。

お問合せ

京都医療科学大学
Kyoto University of Medical Science

〒622-0041 京都府南丹市園部町小山東町今北1-3
TEL.0771-63-0066 FAX.0771-63-0189

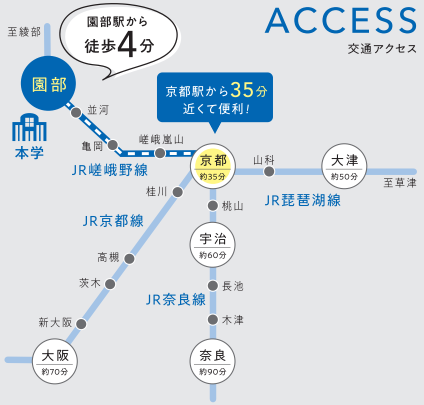
入試情報をはじめ、イベントなどの新しい情報を随時更新しています。

京都医療科学大学を知ろう!

https://www.kyoto-msc.jp/ 京都医療科学大学 検索

ACCESS

交通アクセス



診療放射線技師として、もう一歩深く、もう一段高く。

京都医療科学大学は、診療放射線技師教育の草創期から一貫して専門職教育に取り組み、我が国の医療の発展に寄与してきました。
今後の医療環境の高度化・複雑化に対応するためには、より深い専門知識と実践力を備えた人材の育成が不可欠です。
本大学院は、診療放射線学を中心とした医療技術分野において、専門職としての高度な知識と技能を備え、かつ多職種連携の中で、リーダーシップを発揮できる人材を育成することを理念とします。これにより、国民の健康と福祉の向上に貢献し、地域医療の質的向上と医療技術の革新を支える教育研究の拠点となることを目指します。

本研究科の特色

高度化する医療技術と多職種連携の時代に対応し、診療放射線学を中心に、実践力・研究力・連携力を備えた医療専門職の育成を目指す教育体系を構築しています。

1. 多職種連携を基盤とする共通科目の充実

医師系教員による指導を通じて多職種連携の知見を学び、将来的に医療技術職としてチームを牽引する立場や、教育・研究を担うリーダー人材として活躍するための基盤を築きます。

2. 現場と未来をつなぐ先端専門教育の展開

磁気共鳴、核医学、放射線治療、画像情報学、医療安全など、最新の医療技術と臨床ニーズを反映した専門科目を展開。技術力に加え、応用力・課題解決力を備えた高度専門職を育てます。

3. 社会課題に応える独自の研究テーマに対応可能

- 医療現場と直結したテーマ
  AI・脳科学・画像処理・放射線計測・分子イメージング
  被ばく低減・医療システムデザインなど
- ソフトウェア開発など情報工学的視点から医療の質と効率を向上させる研究テーマ
- 多角的視点の融合による学際的研究テーマ

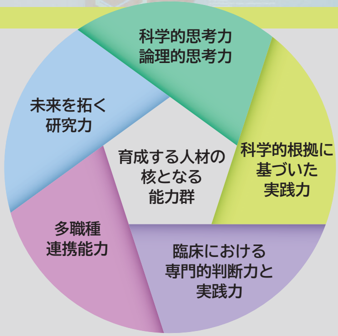
4. 修士から博士への発展性を見据えた設計

将来的に博士課程設置や５年一貫教育も視野に入れて、研究者・教育者としてのキャリア形成も支援します。

教育課程編成

カリキュラムポリシー

1. 「医療画像技術学概論」、「医療画像情報学特論」、「核医学検査技術学特論」等の診療放射線学と、医療工学を応用した放射線治療学を中心とした教育課程とし、高度な専門知識と技術を有する人材の育成を目指す。
2. 薬学や化学分野の科目を取り入れることにより、医療現場における放射性薬剤や分子イメージングなどの理解を深め、関連分野との学際的な連携に対応する。
3. 医療関係法規、安全管理、倫理など、すべての医療職にとって普遍的に重要な内容を教育課程に取り入れ、実践的な倫理観と法的知識を育む。



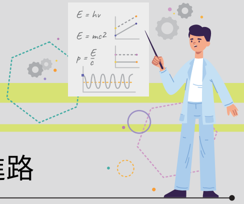
教育研究の柱となる領域

放射線技術学を基盤に、以下を横断的に統合

- 医用画像工学
- 医療情報学、AI応用
- 医療物理、放射線化学
- 医療安全、法規
- 医療倫理、研究倫理

主な研究分野とテーマ(一例)

- 磁気共鳴を主体とする機能情報の映像化
- 核医学を主体とした分子イメージング
- 放射性薬剤の開発、実用化
- 放射線技術分野におけるAIの活用
- AIを利用した医療画像情報学
- 画像処理を含む画像工学
- MRIとNIRS(近赤外分光法)によるブレインサイエンス
- 超音波画像診断、血管治療



養成する人物像

- 高度な専門知識と科学技術適用力を備えた医療専門職
- 品性と人間性を備え、医療倫理に根ざした行動ができる専門職
- 国民の保健医療の向上と社会貢献ができる人材

医療科学に関する高度な専門知識と先端技術を活用する力を備え、倫理観と豊かな人間性をもって多職種と連携しながら、国民の保健医療の向上と医療の革新に貢献できる専門職を育成します。

想定される進路

医療機関
医療現場のリーダー職（技師長等）
病院などで先端的な診療技術を担う医療技術職

進学
大学・研究機関での教育研究職（博士課程進学含む）

海外留学
国境を越えて活躍する医療専門職

※設置構想中のため、リーフレットの記載内容は今後変更となる場合があります

オンラインも活用した学修スタイル

仕事が忙しく毎日の通学が困難な方も
週末や休暇を利用し「修士号」が取得できる

▶ 働きながら学びやすい設計

講義はオンラインも活用し、リモート授業に対応
土曜日や長期休暇等を利用した集中講義で演習を実施

▶ 社会人や現職者の学び直し支援

長期履修制度あり（標準2年、最長3年）・平日夜間（18～21時）中心の講義

▶ 個別の研究・指導体制

実務を活かした研究支援・一人ひとりに寄り添った個別指導